

愛媛県に住む人を増やしたい

～関係人口に着目したプロジェクトの提案～

2年1組 出井 風雅 2年1組 三好 啓太 2年1組 玉井 由乃
 2年1組 藤山 凜 2年2組 岩崎 啓 2年2組 越智 貴大
 2年2組 川内 斗真 指導者 合田 泰智

1 研究の動機

愛媛県は、定住人口が減少している都道府県の1つである(図1)。定住人口を増やすことは愛媛県の人口減少、労働力不足等の解決のために重要である。

定住人口と交流人口の推移を比較すると、交流人口の増減と定住人口の増減には関連性が低いことが予想される(図1・図2)。交流人口は観光客や一時的な訪問者であるため、地域との関わりが短期的になってしまうことが理由として考えられる。

私たちの班では、定住人口と交流人口の間に位置づく、「関係人口」に着目することによって、愛媛県の定住人口の増加を目指すこととした。関係人口とは、その地域に住むことはなくても、地域と何らかの形で継続的に関わりを持ち続ける人々のことを指し、地域の活動や文化に参加したり、地域を応援したりすることで、地域への関心や愛着を深める役割を果たす。また、関係人口は、地域の魅力を広めるだけでなく、外部からの新たなアイデアや視点を地域に持ち込むことができるため、地域の活性化にも貢献する。関係人口にあたる人々が地域と長期的に関わり続けることで、その地域に対する理解や愛着が深まり、定住を決断する人が増えるのではないかと考えた。

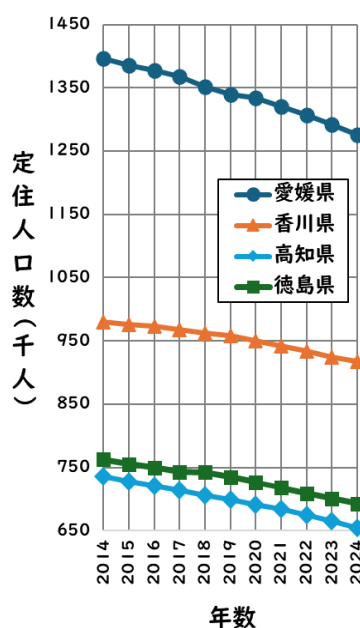


図1 四国都道府県別
定住人口推移[1]

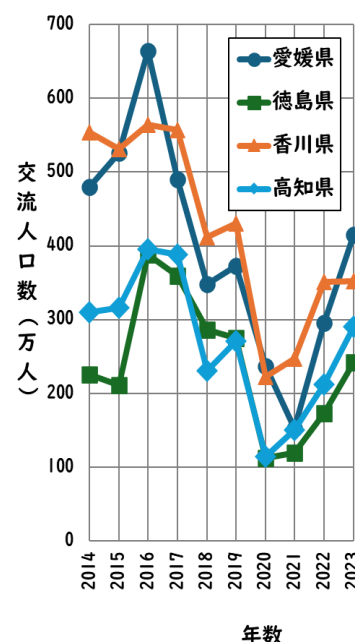


図2 四国都道府県別
交流人口推移[2]

2 研究仮説・目的

「関係人口の増加が、定住人口の増加に繋がる」という仮説を立て、「宇和島市の関係人口増加プロジェクトの提案」を目的とした。

3 検証1：コンセプトの設定

関係人口に関するプロジェクトの先行事例として、総務省「関係人口創出・拡大事業」においてモデルとなった地方自治体の取り組み例を調べた。他の地方自治体の取り組みを参考に、以下の5点を『コンセプト』として設定した。①ターゲットが具体的、②地域の特産品の活用、③双方へのメリット、④SNSやオンラインの活用、⑤地域への関わりの深さに応じた機会提供(ライト・ミドル・コアの3段階)

定住人口の増加を意識している本研究において、⑤の地域への関わりの指標は特に重要であると考えた。そこで、関係人口の4区分[3]と、地域への関りの深さを関連付けて、取り組みの枠とした(図3)。

4 検証2：プロジェクトの提案

「ぜったい！愛鯛（あいたい）！愛媛の鯛」と題したプロジェクトを提案した。このプロジェクトは「地元の中高生」と「都市圏在住者」をターゲットとして、宇和島の特産品の1つである鯛に関連する5つの取り組みで構成されている。地域との関わりが深まっていくように、取り組みを3つのステップに分け、地域との継続的な関わりを目指すように、構成されている。

「1.愛鯛オンライン講座」と「2.鯛めしPRイベント」では、SNSやオンラインを活用して、実際に宇和島に来ることができない人にも関わりを作る機会の提供を目指す。「3.鯛の養殖体験」「4.漁家宿泊体験」

では、体験期間を工夫することで、より長期的に宇和島に関わる機会が提供できると考える。南海トラフに備え、「5.事前復興」についても取り入れた。防災の方法を考えるだけでなく、実際に活動することで、定期的に地域と関わる機会の提供に繋がることが期待できる。

5 成果と今後の課題

本研究の成果は、「地域課題、地域の現状を踏まえたプロジェクトを提案できたこと」「他の地方自治体の取り組みから導出された『コンセプト』を取り入れた、地域との関係の深まりを見込めるプロジェクトを提案できたこと」の2点である。

今後の課題として、それぞれの取り組みをより具体化するとともに、現在宇和島で行われている活動との関連を詳しく調べていきたい。また、提案したプロジェクトによる定住人口、関係人口の増加見込みを試算することに挑戦したい。

参考文献

- [1]総務省「国勢調査」
- [2]観光庁「旅行・観光消費動向調査」
- [3]国土交通省「関係人口の実態把握」
- 総務省「関係人口ポータルサイト」

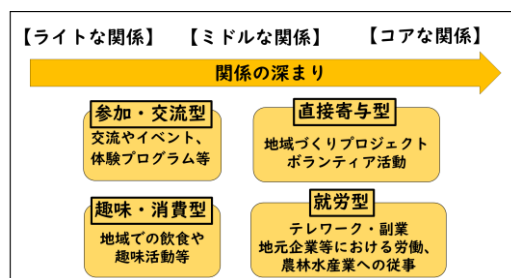


図3 関係人口4区分と関わりの深さの対応



図4 提案プロジェクト